Manno-Town Landslide Disaster Hazard Map

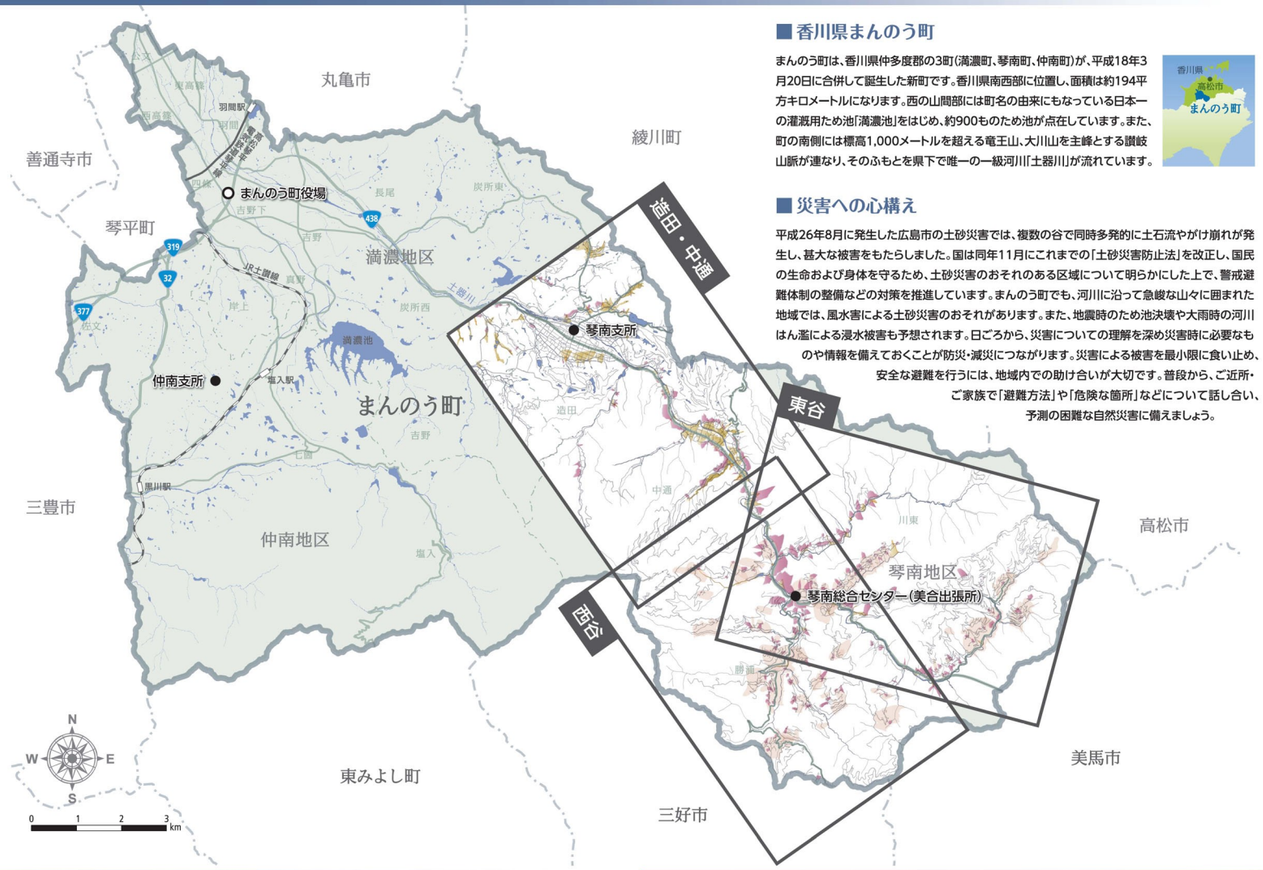
まんのう町
土砂災害ハザードマップ

保存版

琴南地区［造田・中通］

みなさんがお住まいのまんのう町では、大雨によって、土器川や金倉川などの河川がはん濫したり、土石流やがけ崩れなどの土砂災害が発生する危険性があります。このハザードマップは、住民のみなさんが、その危険性を事前に把握し、安全に避難できることを目指したものです。ハザードマップに示されていない箇所でも災害が発生するおそれがありますので、正確な情報を入手して早めの避難を心がけてください。

まんのう町土砂災害ハザードマップ（琴南地区）



■香川県まんのう町

まんのう町は、香川県仲多度郡の3町（満濃町、琴南町、仲南町）が、平成18年3月20日に合併して誕生した新町です。香川県南西部に位置し、面積は約194平方キロメートルになります。西の山間部には町名の由来にもなっている日本一の灌漑用ため池「満濃池」をはじめ、約900ものため池が点在しています。また、町の南側には標高1,000メートルを超える竜王山、大川山を主峰とする讃岐山脈が連なり、そのふもとを県下で唯一の一級河川「土器川」が流れています。

■災害への心構え

平成26年8月に発生した広島市の土砂災害では、複数の谷で同時多発的に土石流やがけ崩れが発生し、甚大な被害をもたらしました。国は同年11月にこれまでの「土砂災害防止法」を改正し、国民の生命および身体を守るため、土砂災害のおそれのある区域について明らかにした上で、警戒避難体制の整備などの対策を推進しています。まんのう町でも、河川に沿って急峻な山々に囲まれた地域では、風水害による土砂災害のおそれがあります。また、地震時のため池決壊や大雨時の河川はん濫による浸水被害も予想されます。日ごろから、災害についての理解を深め災害時に必要なものや情報を備えておくことが防災・減災につながります。災害による被害を最小限に食い止め、安全な避難を行うには、地域内での助け合いが大切です。普段から、ご近所・ご家族で「避難方法」や「危険な箇所」などについて話し合い、予測の困難な自然災害に備えましょう。

日頃から災害に備えよう

■情報の入手先（パソコン、携帯サイト）

テレビやラジオでも情報収集を!

気象庁	パソコン	http://www.jma.go.jp/
高松地方気象台	パソコン	http://www.jma-net.go.jp/takamatsu/
防災情報提供センター（国土交通省）	パソコン	http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
	携帯サイト	http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html
川の防災情報（国土交通省）	パソコン	http://www.river.go.jp/
	携帯サイト	http://i.river.go.jp/
かがわ防災 Web ポータブル	パソコン	http://www.bousai-kagawa.jp/
まんのう町役場	パソコン	http://www.town.manno.lg.jp/
	携帯サイト	http://www.town.manno.lg.jp/mobile/

防災情報メール（登録無料）　避難勧告などの情報が、登録しておくだけで携帯電話のメールなどへ自動的に配信されるサービスです。　http://info.bousai-kagawa.jp/

●音声告知放送が聞き取れない場合　携帯電話をお持ちの方は、エリアメールで告知内容をご確認ください。

■困ったときの対応・連絡先

落ち着いて連絡しましょう

●逃げ遅れた場合	あわてず 2 階に移動し、消防署に連絡し救助を待つ
●自力で避難できない場合	町役場・支所・自治会長・自主防災組織・民生児童委員・近所の人・消防団に連絡し、支援を要請する
●大けがをした場合	応急処置をし、消防署に電話する
●停電になった場合	電源やコンセントを切り、四国電力 丸亀営業所 0120-410-857 に電話する
●家族の安否が不明の場合	災害用伝言ダイヤル 171 などで安否確認のうえ、警察署・町役場・支所に電話する

災害用伝言ダイヤル 171 や Web171 で家族の安否を確認することができます。
災害用伝言板（Web171）とは、インターネットを利用して被災地にいる方の安否確認ができる伝言板のことで、パソコン、携帯電話、スマートフォンなどから利用することができます。　https://www.web171.jp

まんのう町役場	0877-73-0100	琴南支所	0877-85-2111	美合出張所	0877-84-2111	警察署	110	消防署	119
仲多度南部消防組合消防本部	0877-73-4211（代）	美合駐在所	0877-84-2311	造田駐在所	0877-85-2011				

■わが家の防災メモ

必ず記入しておきましょう

		名　前（家族・親戚・知人）	緊急時の連絡先（会社・学校・携帯電話）	生年月日 / 血液型
避難先				
家族の集合場所				
非常持出品の置き場所				

まんのう町土砂災害ハザードマップ　作成／平成 28 年 3 月　まんのう町 総務課　TEL 0877-73-0100（代表）FAX 0877-73-0112

土砂災害について知っておきたいこと

■雨の降り方と土砂災害の種類

洪水や土砂災害が心配される台風や集中豪雨のときは、雨の降り方で危険性がわかります。
降水量によって、河川はん濫や土砂災害が発生する可能性が高くなりますので雨の降り方に注意が必要です。
また、勾配の急な山やがけの多い日本は、土砂災害が発生しやすい地形的な特徴をもっています。

土砂災害は、いつ起こるか分かりません。危険を察知するためには、事前に土砂災害に関する正しい知識と自分が住んでいる土地についての知識を得ておくことが大切です。土砂災害の前兆現象にも気を付けて、避難の判断をしましょう。

気象情報と災害発生状況		土砂災害の種類と特徴			土砂災害の主な前兆現象
激しい雨（1時間に 30～50mm）	パケツをひっくり返したような雨です。山崩れ・がけ崩れなどが発生しやすくなります。避難準備情報の伝達がある場合に備えましょう。	大雨・洪水注意報	がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）：山崩れ・がけ崩れが起きやすくなる	雨や地震などの影響によって、傾斜度が30度以上ある土地が崩壊する自然現象。突然崩れ落ちるため、ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなっています。（警戒区域：土砂災害のおそれのある区域／特別警戒区域：建物が壊れて命や体に危険が生じるおそれのある区域）	●がけから出るわき水がにごる ●斜面に割れ目、変形がある ●がけから小石が落ちてくる ●地下水やわき水が止まる 視覚 ●がけから木の根が切れるなどの音がする 聴覚
非常に激しい雨（1時間に 50～80mm）	滝のように降り、先が見えないほどの雨です。中小河川がはん濫し、土砂災害・水害が発生する可能性が高くなります。避難勧告などの発令に備えましょう。	大雨・洪水警報	土石流：土石流が起こりやすい多くの災害が発生する	山肌が崩壊して生じた土石などや、渓流の土石などが一体となって流下する自然現象。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で、一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。（特別警戒区域：建物が壊れて命や体に危険が生じるおそれのある区域／警戒区域：土砂災害のおそれのある区域）	●川の流れがにごり、流木が混ざり始める ●雨が降り続いているのに、川の水位が下がる 視覚 ●山鳴りがする ●樹木が裂ける音や石がぶつかり合う音がする 聴覚 ●腐った土のにおいがする 嗅覚
猛烈な雨（1時間に 80mm 以上）	息苦しくなるような圧迫感があります。傘は全く役に立たません。水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。	特別警報	地すべり：雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要	地面は何層もの地層が積み重なってできていますが、大雨が降り続くと地下に水がしみこみ、水を通しにくい粘土層の上に地下水がたまります。この地下水の力に持ち上げられて、粘土層を境に上の地面がゆっくりとすべり落ちます。（警戒区域：土砂災害のおそれのある区域）	●地面にひび割れができる ●斜面から水がふき出す ●沢や井戸の水がにごる ●家やよう壁に亀裂が入る 視覚 ●山鳴りがする ●樹木が裂ける音や石がぶつかり合う音がする 聴覚

■安全に避難するためのポイント

雨に注意していますか?
土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険と思ったら、早めに避難しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。

逃げ方を知っていますか?
土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。

避難場所は決まっていますか?
普段から家族全員で、避難場所・避難する道順を決めておきましょう。災害が起きたとき、家族全員が一緒にいるとは限りません。そんな時も、あらかじめ避難場所をみんなで決めておけば安心です。

■土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報とは、大雨警報発表中に土砂災害の危険度が高まった際、香川県と高松地方気象台が市町ごとに発表する防災情報です。土砂災害のおそれがある時の早めの避難に活用しましょう。

- 発表対象地域　市町村単位で発表
- 土砂災害警戒情報文の内容　文章と図による内容
- 発表および解除　香川県と高松地方気象台が協議

土砂災害警戒情報が発表されたら
- 土砂災害警戒情報の発表は、避難行動を開始するタイミングの目安です。
- 町が発表する避難勧告などにも注意し、いつでも行動できるように心構えしましょう。危険を感じたら自主的に避難することも重要です。

避難に関する情報／避難の心得

■避難情報の伝達方法

災害時には速やかに様々な手段で住民のみなさんに避難情報が伝えられます。

国土交通省・気象庁 → 香川県 → まんのう町 → 音声告知放送／エリアメール／まんのう町ホームページ／消防署・消防団／広報車／自主防災組織 → 住民のみなさん

■災害時の避難行動

危険を感じたら、避難勧告などの指示や避難所の開設を待たずに、指定緊急避難場所などの安全な場所に避難してください。

台風が接近し、大雨のおそれがある
土砂災害警戒区域（イエローゾーン）にいる
- YES →
- NO →
  - 外出はひかえる。● 河川・水路などに絶対近づかない。
  - 災害発生の危険がなくなるまで、気象・避難情報に注意して行動を。
  - イエローゾーンのみでも、避難勧告などの避難情報が発令されることがあるので注意。

気象情報や警報・避難情報に注意する

危険度　低 ・・・・・ 高 ・・・・・ 非常事態
- 気象情報（気象庁）：注意報 → 警報 → 特別警報
- 土砂災害警戒情報
- 避難情報（まんのう町）：避難準備情報 → 避難勧告 → 避難指示

「立ち退き避難」をおこなうタイミングは？
気象情報、避難情報や前兆現象などをもとに、早めに避難しましょう。
例）・避難勧告が発令された場合、必ず避難する。
・指定緊急避難場所まで遠いので、避難準備情報が発令された時点で避難を開始する。
・足が悪いので、警報が出た時点で町役場や支所に電話し、早めに自主避難する。

立ち退き避難（基本）
災害が発生する前に、土砂災害警戒区域の外にある指定緊急避難場所などの安全な場所へ避難する。

逃げ遅れた場合

屋内安全確保（緊急時）
建物の2階以上など、浸水や土砂が流れ込む恐れのない上層部など、屋内の少しでも安全な場所へ避難する。
特に土石流が想定される場所では、危険なエリアから離れるか、近くの丈夫な建物の上階に避難する。

「屋内安全確保」に切り替えるタイミングは？
時間帯や屋外の状況をもとに、判断をします。
例）・夜間で視界が悪く、屋外へ出ると危険な場合。
・自宅の周辺がすでに増水していたり、雨足が強いため、屋外へ出るとさらに危険な場合。

避難勧告・指示・警報の解除
自宅が被災して帰宅することができない。　帰宅する

避難所や知人の家へ
ほとんどの指定緊急避難場所は、避難生活を送る避難所として利用可能。

指定避難所
被災者が避難生活を送るための避難所

指定緊急避難場所
災害の危険から一時的に逃れるための避難場所

■避難の心得

安全な避難経路の確認を！
- 事前に確認しておく
- 河川やがけの近くを通らない

非常持出品の事前準備を！
- 定期的に中身を確認

正確な情報収集と自主的な避難を！

避難する前に！
- 電気・ガスの火元の確認
- 親戚や知人に避難することを連絡

ただちに避難を！
- 避難勧告
- 避難指示
- 危険を感じたら

動きやすい服装 2人以上で避難を！
- 2人以上で避難
- リュックサック
- 長袖、長ズボン

車での避難は控え、徒歩で避難を！
- 交通渋滞
- 浸水による故障
- 緊急車両の妨げ

災害時に援護を必要とする人に協力を！
- 身体の不自由な人
- 高齢者
- 乳幼児

■非常持出品

非常持出品は、夜間時の避難を前提に、足元を照らす懐中電灯をはじめとして、替えの下着なども必要となります。
過去の避難の教訓から、緊急の避難でない場合は、非常食（おにぎり1食分程度）を自分で用意する心がけが必要です。

非常持出品チェックリスト

- **食料品**：飲料水／非常食
- **衣類など**：下着・上着／タオル／洗面用具
- **貴重品**：預金通帳／印鑑／現金
- **安全対策・その他**：常備薬
- **日用品など**：懐中電灯（予備電池・電球）／携帯ラジオ／予備電池／携帯電話／充電器
- **小さな子どもや高齢者の方が居る家庭では**：粉ミルク・ほ乳瓶／離乳食／流動食／紙おむつ
- **ペットの居る家庭では**：ケージ／ペットフード／ふん尿の始末用品

・非常持出品は必ず備えるようにしましょう。
・持出品は、欲張ると避難の妨げになる場合があります。（目安：男性15kg、女性10kg）
・何を、どれくらい、誰が持つかなどを、家族全員で話し合いましょう。
・持出品は、まず「無ければ困るもの」を用意し、常に身近においておきましょう。次に「あれば便利なもの」を用意し、普段の生活の中に組み込んでおきましょう。
・非常食や飲料水の備蓄は、家族全員3日分を備蓄しておきましょう。飲料水は一人1日3リットルが目安です。小さな子どもや高齢者の方の食料なども用意しておきましょう。
・ペットが居る家庭では、ペットフードやふん尿の始末用品を用意しておきましょう。